

# 上尾 歴史散歩 277

遺跡が語る上尾の歴史

## とのやま 殿山遺跡から出土した旧石器時代の石器

～西日本の技術で作られた石器の発見～

獲得した動植物を切ったり削ったりするためには、ナイフ形石器という石器が用いられた。ナイフ形石器は、石材の一部が鋭利な刃となっている石器で、地域によって作り方が異なる。東日本では石を縦長に割った剥片を、西日本

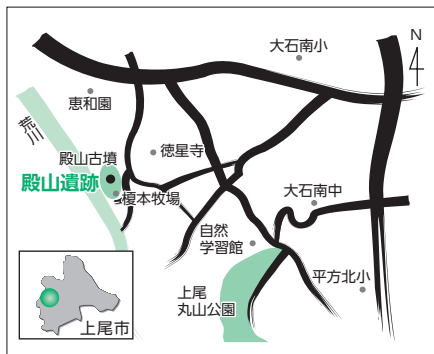
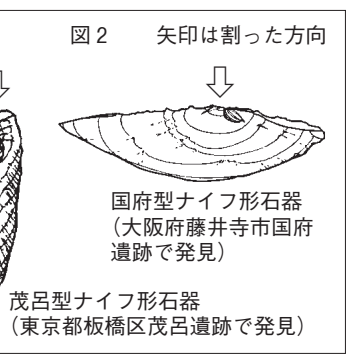
殿山遺跡は、上尾市西部の畔吉地区に位置し、榎本牧場や殿山霊園の周辺一帯に広がる遺跡である。昭和52年から3回の発掘調査が行われ、2、375点の石器が出土した旧石器時代の遺跡として知られている。

旧石器時代は、縄文時代の前に区分されており、石器が発見される前であることから先土器時代とも呼ばれている。当時は、動物の狩猟や植物の採集を主な生業とし、それらを追い求めて移住を繰り返していたと考えられている。そのため動植物を見渡すことができる小高い台地上の殿山遺跡のような場所が、生活の場として選ばれたようである。

では横長に割った剥片を加工し、それぞれ石器が作られた。殿山遺跡から出土したナイフ形石器は、多くが東日本（関東地方から中部地方南部）に分布している茂呂型と呼ばれる縦長の石器である（図1）。しかし5点ほど、国府型ナイフ形石器と呼ばれる西日本の製作技術で作られた横長の石器が出土した（図2）。この石器が関東地方で初めて出土したのが殿山遺跡であり、それによって約2万年前に東西日本で交流があったことが確認された。石器が伝わったのか、それとも技術が伝わったのかは定かでないが、2万年前も昔から人々が日本中を動き

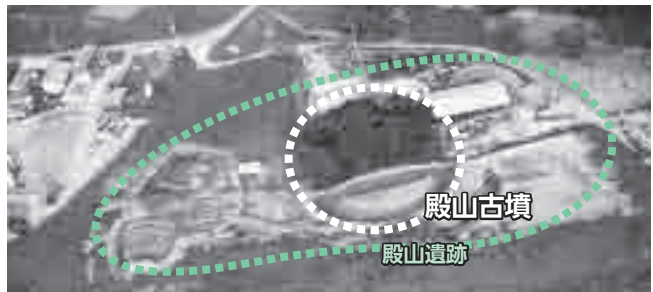
獲得した動植物を切ったり削ったりするためには、ナイフ形石器という石器が用いられた。ナイフ形石器は、石材の一部が鋭利な刃となっている石器で、地域によって作り方が異なる。東日本では石を縦長に割った剥片を、西日本

では横長に割った剥片を加工し、それぞれ石器が作られた。殿山遺跡から出土したナイフ形石器は、多くが東日本（関東地方から中部地方南部）に分布している茂呂型と呼ばれる縦長の石器である（図1）。しかし5点ほど、国府型ナイフ形石器と呼ばれる西日本の製作技術で作られた横長の石器が出土した（図2）。この石器が関東地方で初めて出土したのが殿山遺跡であり、それによって約2万年前に東西日本で交流があったことが確認された。石器が伝わったのか、それとも技術が伝わったのかは定かでないが、2万年前も昔から人々が日本中を動き



(上尾市生涯学習課)

回りを、他地域と交流していたことを、殿山遺跡は示している。殿山遺跡は示している



上空から見た殿山遺跡の様子(昭和52年撮影)。現在は墓地などになっている



アッピーを探そう!

右のアッピーが登場するのは? ページ



【賞品】 正解者の中から抽選で5人に、粗品を差し上げます。

【応募方法】 はがきかメールにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、『広報あげお』の感想を記入して、4月21日(月)まで(必着)に上尾市広報広聴課「わくわくクイズ係」へ。

あて先: 〒362-8501本町3-1-1  
メールアドレス: s55000@city.ageo.lg.jp

【発表】 賞品の発送をもって発表に代えさせていただきます。 ※正解は5月号のこのコーナーで。前号の答えは「21」でした。ご応募ありがとうございました(応募者54人)。

市の人口・世帯  
(平成26年3月1日現在)

22万7,912人

男/11万3,519人  
女/11万4,393人

※前月より155人減。

9万5,323世帯

◆『広報あげお』は、各支所・出張所、JR上尾駅・北上尾駅の他、市内の各公共施設、金融機関などに置いてあり、自由に持ち帰れます。  
◆環境保全のため、市内の公共施設へのお出掛けは市内循環バス“ぐるっとくん”を利用してください。



本紙は、再生紙を使用しております。